

## 令和5年度北海道千歳高等支援学校評価結果の考察 ～保護者、関係機関職員並びに学校職員による評価表集計結果から～

### 1 実施方法

- (1) 対象 北海道千歳高等支援学校全職員及び保護者、関係機関、生徒
- (2) 期間 令和5年12月1日～12月22日（教職員）  
令和5年12月1日～12月22日（保護者・関係機関、生徒）
- (3) 方法
  - ア 評価項目による5段階評定
  - イ 自由記述
- (4) 結果の処理
  - ア 評価項目による評定
    - (ア) 5段階評定の回答に対して、それぞれ1～5ポイントを付与し平均値を算出する。
    - (イ) 各段階の回答率を算出する。
  - イ 自由記述  
記述内容によりカテゴリーに分類する。

### 2 結果集計

- (1) 回収率
  - ア 学校職員  
全体数 35名 回収数 35 回収率100%
  - イ 保護者  
全体数 60名 回収数 44 回収率73.3%
  - ウ 関係機関（学校運営協議会委員）  
配布数 5名 回収数 5 回収率100%
  - エ 生徒  
配布数 61名 回収数 59 回収率96.7%
- (2) 評価結果集計表
  - ア 評価設問による評定（学校職員 30項目）
  - イ 評価設問による評定（保護者 20項目）
  - ウ 評価設問による評定（関係機関 11項目）
  - エ 評価設問による評定（生徒 10項目）
  - エ 自由記述（保護者、関係機関及び学校職員、生徒）

### 3 評価結果の考察の観点

(1) 評価結果から、低数値を示す設問の内容について改善が必要であるとし、次のとおり考察する。

- ア 学校職員及び保護者、関係者の平均値
- イ 学校職員及び保護者、関係者のD～E段階の回答率が10%を超える項目
- ウ 学校職員及び保護者、関係者の回答なしの回答率が10%を超える項目
- エ 学校職員と保護者の平均値比較（差異、学校職員＞保護者）
- オ 生徒の否定的回答率が10%を超える項目

(2) 自由記述内容の傾向

### 4 評価集計結果

(1) 学校職員

評価平均値が3未満の項目はない。

評価「D」～「E」の回答率が10%を超えている項目は、1項目である。

評価「D」～「E」の回答率が高い項目は、設問24「それぞれの業務を効率的に取り組み、効果的な教育活動に結びつけることができている。」の14.3%である。

設問7「本校における学校行事は、生徒の実態や適切な時期、日程に応じた取組となっている。」が「C」を加えると17.1%「設問2「分掌及び事務、学科、学年の運営は、組織的に行われている。」が「C」を加えると22.8%、設問14「学校近隣の地域の方や施設の方との関わりを通して、生徒一人一人の社会生活を考える活動となっている。」が「C」を加えると14.3%となっている。

「回答なし」の回答率が10%を超えている項目はない。

評価「D」～「E」の回答率が10%を超えている項目と一致している項目は、1項目である。これは、マイナスの評価と関連していると捉え、今後の指針に反映させる。その他の3項目については、設問に係る組織、行事、交流及び共同学習についての実施状況などに納得が得られていないことが伺える。これらは、設問24との関連もあることから現状を把握、共有の上で計画的に検討を進める必要がある。

(2) 保護者

評価平均値が3未満の項目はない。

評価「D」～「E」の回答率が10%を超えている項目もない。

評価「D」に「C」を加えると設問7「学校全体の教育活動を通じて。他者への思いやりや命の尊厳など、心を育む教育（道徳教育）を意図的に実施していますか。」27.3%、設問13「本校では、災害などへの対策、対応を想定した日常の教育活動を行っていますか。」27.3%、設問16「本校の職員は、公務員としての立場を自覚し、ふさわしい言動、望ましい服装などに留意していますか。」13.6%、設問20「PTA活動は、保護者と連携して会員が積極的に参加し、充実した内容となっていますか。」34.1%となっている。

「回答なし」の回答率が10%を超えている項目はない。

評価「D」～「E」の回答率が10%を超えている項目と一致している項目はないが、その他の4項目の設問に係る道徳教育や危機管理については、理解が十分でないことが伺える。これらは、学校便り等

の各メディアを効果的に活用し、積極的な情報提供などを意図的、計画的に図ることが求められる。公務員としての自覚については、厳しい指摘と受け留め全職員が言動や服装について適切に対応することが重要である。PTA活動については、通学型特別支援学校高等部の難しさが反映されていると考えられる。PTA活動に対する理解を広げるための情報提供などを意図的、計画的に図ることが求められると共に保護者の意識調査などの実施も検討する必要も考えられる。

### (3) 関係機関

関係機関では、評価「D」～「E」の回答率が10%を超えている項目はない。

全ての項目において平均値が4を超えていることから本校の取組について高く評価されていると捉えることができる。

### (4) 学校職員及び保護者の評価結果の比較

保護者20項目との比較では、全ての項目で差異が0.2以内となっていることから、学校職員と保護者の評価がほぼ一致していると考えられる。

項目10道徳教育、項目11進路指導、項目12生徒指導、項目17及び項目19危機管理、項目25情報発信、項目27保護者連携に係る項目について学校職員よりも保護者の評価が厳しい結果となっている。道徳については、教育課程の見直しの中でより効果的な学習内容や教材等を含む授業力の向上を図ることが求められる。進路指導については、進路決定の重要性は勿論であるが、在学中のキャリア発達の視点による学習活動の保障と作業学習や実習における働く力の明確化、進路指導から考える教育課程など様々な視点から整理することが求められる。生徒指導については、いじめに係る項目であり、保護者連携とも密接に関連することから日常生活における生徒指導と事故対応の両面からの検証、組織的な対応を可能にするなども含め一層の充実を図ることが求められる。危機管理については、本校の現状を理解いただく機会を明確に設定し現状の理解の上で現在の課題を把握、その対応を進めることが求められる。情報発信については、各メディアのより効果的な活用と適切なタイミングなどについて関係部署で検討、実施することが求められる。保護者連携については、特に事故対応時の情報共有やその後の対応策の検討の方法や手続きなどの丁寧な説明と傾聴による事実把握などに迅速かつ適切に対応するシステム作りが求められる。PTA活動については、理解啓蒙を進めることを優先した上で様々な意見など把握していく必要がある。

### (5) 生徒

生徒アンケートからは、否定的回答が10%を超えている項目に注目する。

項目1「千歳高等支援学校に通うことは楽しいですか。」10.2%、項目2「個別の学習確認表を見て、自分の成果や課題が分かりましたか。」13.6%、項目5「先生はどの生徒にも公平に接していますか。」18.6%、項目6「先生は丁寧な言葉や態度で接していますか。」11.9%、項目7「友達がマナーやルールを守らず、困ったことがありますか。」13.6%となっている。これらの数字は、6名から11名が回答していることを意味し、各学年平均で2名から4名の意見と捉えることができる。決して一部の意見と考えることなく教育活動のより一層の充実と特別支援学校ならではの個々の生徒への確かに必要な支援が求められる。公平性、丁寧な言葉や態度については、厳しい指摘と受け留め全職員が言語環境、服装など適切な対応と特別支援学校の専門性を発揮した学習指導や生徒指導を推進していくことが求められる。その他の回答については、教育課程編成、進路指導、生徒指導等を進める上での参考資料として活用することが求められる。

(6) 評価項目集計に係る評価のまとめ

全体的にみて、平均値（3）を越える結果となっている。学校職員と比較して保護者の数値が低くなっている項目数も7項目であった。

また、保護者、関係機関結果で「C」「D」「E」の回答率が高かった設問や学校職員結果で「C」「D」「E」の回答が高かった設問は、学校職員4項目、保護者で4項目だった。原因を明らかにし、今後の対応を検討する必要があると思われる。

## 5 「自由記述内容」の集計結果

(1) 学校職員による「自由記述内容」

「改善が必要」に関する内容は、「組織運営」「教育課程」「学校行事」「ICT」「健康指導」「道德教育」「生徒指導」「交流」「予算」「危機管理」「研究・研修」「人権尊重」「働き方改革」「保護者連携」「機関連携」について記述があった。

評価項目結果と照らし合わせ、具体的な方策を検討する時の視点として反映させる。

(2) 保護者、関係機関職員による「自由記述内容」

「改善が必要」に関する内容は、「道德教育」「危機管理」「PTA活動」について多くの意見をいただいた。観点別に分類し、検討の参考にする。

(3) 「自由記述内容」の傾向

学校職員による記述では、「組織運営」「学校行事」「働き方改革」に関する改善を指摘する意見が多い。

保護者による記述では、「道德教育」「危機管理」「PTA活動」に関する改善を指摘する意見がそれぞれ一つずつあった。